

6 持田萬治まんじと製糸場

持田萬治は、明治二十七年（一八九四）五月、鎌倉郡中
和田村上飯田三七二番地（泉区上飯田町）に製糸場を設
立した。泉区内には、所在が確認されているものだけでも
八か所の製糸場があり、横浜市域では、瀬谷区とともに製
糸業の盛んな所であった。



持田萬治

『第二次全国製糸工場調査表（農商務省 明治三十一年
調査）』によると、持田萬治製糸場は、工員の数六十四人、

一年間の繭まゆの使用量は三百石、年間の生糸の製造高は一六
八七斤で、当時この近在では中規模程度の工場であった。
萬治は、明治二年、鎌倉郡上飯田村三七二三番地に甚蔵
の長男として生まれた。萬治が製糸場を設立したのは二十
五歳の時であった。しかし、火災で工場が全焼したため経
営不振に陥り、明治の末期には製糸場を廃業した。
その後萬治は、横浜市吉岡町二丁目十一番地に清涼飲料
水会社「大和商会」を設立し、サイダーやラムネの製造を
始めた。大正四年三月十六日に死去し、中和田村上飯田三
七二三番地の墓地に葬られた。



大和商会の商品